

## 平成 24 年度第 3 回平塚市博物館協議会会議録

### ■開催日時

平成 25 年 3 月 22 日（金）10 時～11 時 30 分

### ■開催場所

平塚市博物館特別研究室

### ■会議出席者（敬称略）

会 長 牧野 久実

副会長 宮川 重信

委 員 石綿 進一、猪俣 秀、熊澤 武彦、椿田 有希子

事務局 鳳館長、澤村館長代理、縣館長代理、塚田学芸員

### ■会議の概要

#### 1 開 会

#### 2 議 事

##### (1) 報告事項等について

- ・平成 24 年度事業報告

（入館者数・プラネタリウム観覧者数、秋期特別展「くらしの今昔」及びイブニングミュージアムウィーク、第 14 回博物館文化祭等について）

- ・平成 25 年度当初予算について

##### (2) 平成 25 年度事業予定について

##### (3) 春期特別展について

##### (4) その他

- ・事務連絡等

### ■議事および質疑

議題(1)の平成 24 年度事業報告について、事務局澤村館長代理から協議会説明資料により説明

委 員 博物館文化祭の来場者アンケートですが、回答者は部外の単なる来館者の方なのか、それとも内部の一般の方なのでしょうか。

事務局 無記名で箱に入れていただく形ですので確認はできませんが、どこかのサークルに属されている方が書かれていることもあるかと推測します。

委 員 意見が二分されている感じがありますね。

委 員 これだけの事業について説明いただきましたが、大変ご苦労されて、全体的に入場者などプラスの方向に向かっていると思います。今は博物館の会場を核として活動されているわけですが、平塚の歴史など、学芸員さんの専門的な知識を公民館まつりなどの場で子供たちに教えるような活動を行ってはどうでしょうか。予算も厳しい状況ですが、攻めの事業を展開してほしいと思うのですが。

事務局 公民館などへ学芸員が出かけて行う活動をしてほしいとのご要望かと思えます。今は、それぞれの地域のニーズがあって、学芸員が持つノウハウや調査成果などを聞きたいというご要望がある時は、そのつど派遣しております。年間で 20 件ほど受けて出向いております。社会教育部という同じ行政組織のなかで、博物館と公民館とが連携を取りながら、そうした事業を実施している状況です。公民館など、地域との連携を深めることで、地域からの要望をもっと取り入れることができるかなと思います。のちほどご紹介しますが、まず 25 年度の試みとして、金目地区の地元で調査されている方々と連携した特別展を博物館で実施します。

博物館を利用する方法や、地域の方同士でこういうことができるのだ、ということ、これから地域でどのように調査を進めればよいのか、ということを考える機会を作りたいと思っております。

議題(1)の平成 25 年度当初予算について、事務局縣館長代理から協議会説明資料により説明。

委員 昨年 9 月の協議会で出た博物館の普及教育活動推進事業の仕分けの件ですが、要改善の対象となっていた事業について、予算の見直しがされないで何とか取れたのかどうか、教えてください。

事務局 事業仕分けについては要改善の指摘を受けましたが、その内容が「やめなさい」というものではなく「ちゃんとやりなさいね」というものでした。その分を圧縮しなさい、この事業をやめてこれをやりなさい、ということではなく、今我々が実際に取り組んでいるものをより積極的に行って、より深化させなさい、という内容での要改善というご意見でした。したがって、予算でここを切りなさい、この事業は無駄でしょう、といったご意見は出ませんでしたので、我々も例年通り予算を組ませていただき、今行われている議会でまもなく認めていただこうとしているところです。

委員 外壁工事が済んで、今回、屋上の予算が認められなかったということですが、継続的に来年度もまた申請していかないと、ということですね

事務局 当初予算で計上して見積もり等を建築住宅課に出してもらったのですが、現時点で雨漏りが一部ありますが、大勢的には大丈夫だろうとの判断で見送っております。補正予算で何とか計上したいと考えております。

委員 耐震についてはやはり同じようですか。

事務局 耐震調査委託の形で要求して 3 年目になりますが、市全体の公共施設の耐震化計画がまだ明確ではない部分があり、なかなか取り組むことができないのが現状です。新耐震基準を満たしていませんので、粘り強く要求していかねばと考えております。

委員 学芸員さんの調査活動出張費が本当に少額で大変だろうと思います。学芸員さんの調査・研究はとても重要だと思うのですが、外部研究費を獲得する努力はされているのでしょうか。たぶん、すごく足りないと思うのですが。

事務局 現状では、調査旅費は結果的にまかなえています。地域博物館ということでフィールドが比較的近隣ですので、遠くに出かけることは特別なことになります。通常活動では現状の旅費の中で大丈夫かなと。旅費も毎年劇的に減らされているということではないので、何とかやっているといる状況です。今後の可能性として、館としていろいろな蓄積を進めていくために、遠方で活動している方々の考え方などを取り入れる必要もありますので、今後とも一定程度確保してまいりたいと考えております。

議題(2)の平成 25 年度事業予定について、事務局澤村館長代理から協議会説明資料により説明。

委員 夏期特別展「真田・北金目遺跡群」と同じ形ではないのですが、過去にもいろいろな時にあの地域を取り上げていたかと思います。富士見公民館もどこの公民館も 50 周年などの記念誌を作る時、一番メインになるのはその土地の歴史などです。過去にも、金目を出発点として、博物館か社会教育課かどこかが音頭を取り、順番に各地区を調べたことがあります。金目のあと、須賀などいろいろな地区をやりました。それを機会に地域でも、新たに発見できることがあると思います。夏期特別展で北金目を取り上げたのは、深い歴史や価値があるからだと思いますが、本来、どの地域も多少の差はあっても歴史や価値があるはずで、北金

目だけでなく、より全市的に、より幅広い時代について、博物館の特別展でどういう視点で取り上げるのか、という基準や計画性・方向性などがあるのかな、と思います。毎年、特別展のテーマを決める際に、平塚市でまだ取り上げていない分野や地域などについて、地域の人とタイアップしてやっていくような遠大な計画が、過去にもあったかと思うのですが、これから博物館でやれるのかどうか。地域はいつも自分たちの地域のことを調べたいし、発表したいし、記録したいのですね。博物館なり、どこかからの一押しがあるとやりやすいし、できるのではないかと思うのですが。

事務局 これまでに、社会教育課が地域再発見事業として、中原御殿や須賀の港についての活動などを市は支援して来ました。事業としては終了した後も、応援して行こうという考え方は残っています。たとえば何か発掘が行われたり、新しい資料が出て展示してはどうかという時には、博物館が対応することになりますし、また博物館が抱える市史編さん担当の役目としてということもあるでしょう。今度の「真田・北金目遺跡群」の特別展については、社会教育課が18年間にわたって調査活動をしてきた成果ですので、この地域の歴史の集成をしようということで考えております。これを皮切りに地域ごとの活動と市の関わりについてまた議論が進む可能性もあろうと思います。

委員 関連して、中原の地域ですが14日にまた権現祭が開かれます。20数年前のふるさと再発見事業で中原も歴史を説明していただいたり、若干の事業費がつくなどしてスタート時は華やかでした。段ボールで甲冑を製作しましたが、20数年も経つとボロボロになって、予算も無く、苦勞しています。みな、スタート時は夢中になりますが、永続・継続することはいかに大変かということです。事業の展開には長続きさせることが大切だと思います。地元も高齢化し、歴史を知らない新しい若い人から「権現祭って何だろう」と質問を受けたりします。何とか続けながら、若い人には意味が分かっていないという点が気になっています。歴史を継続・永続させて目的をつなげていくために、起爆剤がほしい。地元ではどう継続するか、どのようにして若い人につなげていくかが悩みの種で、なかなかよい対策がありません。

事務局 何か梃子入れができると良いということですね。

委員 もう一回専門家の方をお願いして、中原の“ひばり御殿”を復習し、歴史が分かって見れば、若いお母さんも子供たちも見方が全然違ってくると思います。

委員 子供たちの総合学習として活用できると思うのですが、学校との連携は何かありますか。

委員 30人ぐらいの子供たちに甲冑を着せて歩かせていますが、何でやるのだらうという説明が無いと、続けるにしても、いつまでもつのか、負担になっているのではないかと、という感じを受けています。一方で、何とかしなければいけないという意見もあるのですが。

委員 学校も地域の部分ということで、土屋小学校も140周年の行事を考えていますが、地域のお年寄りが昔の古い写真を持っていらっしゃるの、学校・幼稚園・公民館も入っている地域のホームページで古い写真を募集しました。学校のほうでやれることを、ということで地域の方のお話を聞いて、写真と解説を毎週1〜2枚、ホームページに載せています。それを若い人や保護者の方などが見てくださって、多い時にはアクセス数が1500名を超えて、すごいなと思っています。なかなか宣伝はできないのですが、アクセス数が増えているのは見ていただいているということで、地域の歴史の面で少しは役に立っているのかなと。140周年としてホームページにアップしたものを全部まとめれば、せつかく提供していただいた地域のみなさんのためにも少しは良いのかなと、今取り組んでいるところです。

事務局 140周年は来年ですか、今年ですか。

委員 今年です。予算が無いので、地域のお年寄りの方に、昔の学校や生活について子供たちにお

話していただこうと思っております。

事務局 博物館にも、土屋小学校がまだ萱葺の屋根で、校庭で子供たちが和服で体操している写真があります。去年の夏期特別展で作った図録に掲載させていただいています。

委員 学校でもお寄せいただいた写真をデジタル化して拡大し、廊下に掲示しています。見てくれている子供たちに、私も昔の学校について説明したりしています。そうしないと、どんどん消えて行ってしまいますので。できれば金目だけでなく、土屋など、地域を活性化する意味でもいいのかなと思います。その一役を担うということで、学校も活用していただければありがたいと思います。

委員 余談ですが、先日、土屋の妙円寺を案内してもらいました。銭洗い弁天などについて親切な説明を受け、平塚にこんないいお寺があったのかと良い経験をしました。意外と市民でも知らない人がいるのではと思います。

事務局 妙円寺さんは檀家の枠を越えて地域の方々が行事に参加されています。地元のことを覚えている方々がまだまだいらっしゃると思うので、そういう活動があったということを地域で記録に残していただくのも貴重なことだと思います。

委員 来年度の事業ですが、いろいろと事情があるかと思いますが、動物・植物についての活動をうまくピックアップするような事業がほしいなと思います。平塚で活動されている方を集めてチームを作ることができないものかなと。私もいくつかのグループに聞いたりしているのですが。

事務局 動植物に関する事業を進めることは従来博物館の事業の柱の一つと考えておりますが、担当者の決定などまだ来年度の予定に具体的に組み込むことができていません。どういう体制でやるかという点を含め、周りの方々と連絡を取りながら、ありがたいことに協力を申し出てくださる方もありますので、予定は予定として、これからの状況を見て事業を追加する形で考えて行きたいと思います。石綿委員には本年度の事業についてご協力いただきありがとうございました。またお願いする折にはよろしく申し上げます

委員 協力は惜しみません。過去にも水辺の楽校もありましたし、それらと有機的にからめて何かできないかなと考えております。私にできることは何でもしますので、ぜひよろしく申し上げます。

### 議題(3)の春期特別展について

事務局 後ほど展示室で詳しく説明いたしますが、今回の特別展で天の川の天体写真を提供して下さった方の新聞記事の写しをお配りしました。こうした方々のご協力で特別展が成り立ったということで、まずご報告します。

### 議題(4)について、次回日程打合せ

事務局 次回会議の日程ですが、5月の連休明けのぐらいい開催させていただきたいと思っております、では5月10日の金曜日、10時ということでお願いしたいと思います。

事務局 鳳館長がこの3月31日をもちまして定年退職となります。館長から御挨拶させていただきます。

鳳館長 本日はお忙しいところをありがとうございました。私事ですが、還暦で定年退職ということになりました。3年間、館長を務めさせていただき、その間お世話になり、どうもありがとうございました。私が採用された昭和51年5月1日は開館日と同じで、37年間、博物館一筋で歩んでまいりました。ある意味で幸せなことだったと思っております。館長としての3

年間が一番あたふたとしていたと感じています。プラネタリウム更新もありましたが、外的な要因として3.11の地震を経験し、施設についても随分考えさせられました。耐震補強なども訴えてきましたが、なかなか壁が厚く、市の全体方針が決まらず、私の代では解決策が見つかりませんでした。今後、施設の運営が大きい要素としてのしかかると思います。40年経ちますので喫緊の課題ですが、どう訴えて形にしていくか、大変な作業だと思っております。後継の学芸員については、ありがたいことに市の方針としてきちんとやっていただいておりますので安心しております。私も引き続き学芸のほうに残り、天文など担当しながらまたお世話になります。長いことありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます

以下、特別展示室に移動し展示の内容説明